

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) マワタリ カズヒロ
文京学院大学	経営学部	馬渡 一浩 ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) エスハン	フリガナ) サカモト ヒカリ	6	無
S 班	坂本 ひかり		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
特にありません

研究テーマ (発表タイトル)
発達障害のミエル化

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

近年、新聞記事やニュース、テレビなどの様々なメディアで発達障害が取り上げられるようになり、発達障害という言葉を知る機会が増えてきました。

しかし、発達障害の方や保護者は「なかなか周りの人に理解してもらえない」という大きな悩みを抱えています。そこで私たちは、実際に発達障害の方の見え方や聴こえ方などの疑似体験してもらい、発達障害の知識を深め、周囲の理解の向上させることを目的とします。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

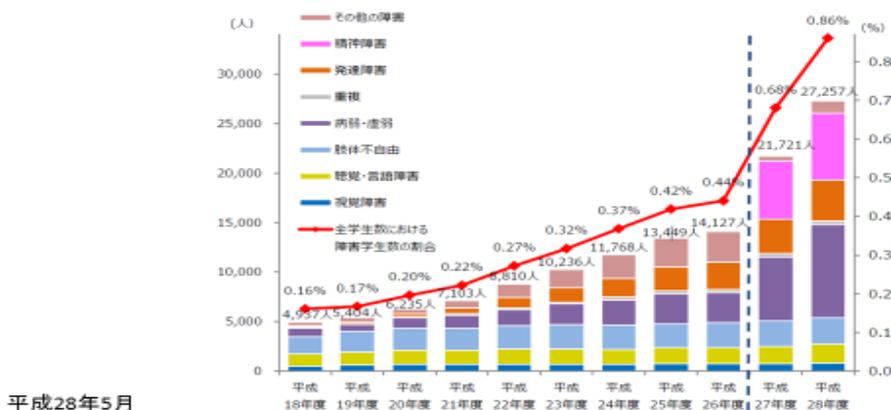
現在発達障害の学生数は 2010 年頃から急激に増加しています。

しかし、一般 20 代~60 代男女 330 名を対象に行った発達障害という言葉を知っているかという調査では、過半数が名前以上の知識を持っていないということがわかりました。

さらに、発達障害や発達が気になる子供を持つ保護者 330 名に行ったお子様の発達障害について理解されていると感じますかという調査によると、39%の保護者が理解されていないと感じると回答しました。新聞記事やニュ

ースなどで発達障害という言葉聞く機会は増えていても、発達障害についてはあまり理解されていないということがわかりました。

障害学生数と障害学生在籍率の推移



参考: ASSO「平成28年度(2016年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果の概要について

3. 研究テーマの課題

発達障害が周囲にあまり理解されていないことや、身体障害と違って見た目では判断しにくいことから、周囲の人にわかってもらえないため、一生懸命やっていたとしても、怠けていたり、わざとミスしているように思われたり、やる気がないように誤解されてしまったりします。

周囲に理解してもらえないストレスなどから、不登校、うつ症状、ニート問題などの二次障害を引き起こしてしまうことがあります。これらは社会問題の悪化にもつながってしまいます。

また、発達障害に詳しい本学の人間学部の伊藤英夫先生にヒアリングに行った結果、発達障害に対する支援は大学からでは遅いため、高校生のうちからの支援が必要ということがわかりました。

4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など) 5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)

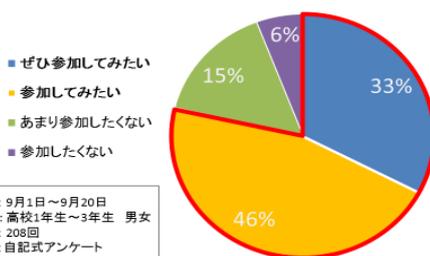
私たちは4つの流れに沿って健常な高校生を対象に行う、ミエル化プロジェクトを実施します。

最初に発達障害についての事前アンケートを取り、発達障害疑似体験をしてもらいます。

疑似体験を通し気づいたことやわかったことを話し合ってもらい、状況に応じてどのような対応をするのか考えて話し合うグループワークを実施します。最後にプロジェクト全体を通して何を感じたか、発達障害について理解できたか、などの事後アンケートに答えてもらいます。事後アンケートで、理解が深まったと回答してくれた生徒にミエルバッチを渡す。ミエルバッチをつけてもらう事でミエル化を実現したいと考えています。また、同時に募金活動を行い、障害に合わせた道具をより多くの学校へ設置できるよう寄付に当てたいと考えています。発達障害疑似体験を通して、発達障害の知識を深め、周囲の理解の向上させることができます。

実際に発達障害の見え方や聞こえ方が疑似体験できるセミナーが会ったら参加したいかと言う高校生を対象にアンケートを実施したところ約70%以上の生徒がぜひ参加してみたい、参加したいと回答していただきました。

実現可能性 発達障害の方がどのような見え方や聞こえ方をしているか疑似体験できるセミナーがあったら参加してみたいですか？



調査期間: 9月1日～9月20日
調査対象: 高校1年生～3年生 男女
有効回数: 208回
調査方法: 自記式アンケート

6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みといたしましては、まず実際に発達障害疑似体験を高校生へ実施できるよう、現在高校に掛け合っていますのでプロジェクト実現のため、進めて行きたいと考えています。

次に成功事例を基に参加してくれる高校生を集い、高校の先生の繋がりがあある他校に話題提供、参加者に SNS で宣伝、などでプロジェクトの知名度を上げます。また、大学でも発達障害に取り組むべきだと考えています。そこで、大学全体にミエル化プロジェクトを進めて行きたいと考えています。大学の教員と連携し、教員と生徒でグループを作り、高校を訪れたいと思っています。

最後に発達障害疑似体験を定期的実施できるよう研究を進めていきたいと思います。

7. 参考文献

【論文】

西村優紀美（2010） 「発達障害大学生支援におけるナラティブ・アセスメント」（参照 2017/0807）

鈴木優歩子、東條吉邦（2013） 「大学生における発達障害の理解に関する研究」（参照 2017/08/07）

高原光恵、津田芳見（2012） 「一般社会人における発達障害に関する用語の認知度」（参照 2017/08/08）

岡山県総合教育センター（2010）「高等学校における発達障害のある生徒への支援Ⅱ－内面, 学習面, 生活面への支援－」（参照 2017/08/10）

岡山総合教育センター研究紀要第2号（2009）「高等学校における発達障害のある生徒への支援に関する研究」

市川奈緒子（2011）高等教育機関における発達障害を持つ学生の支援と現状と課題 市川奈緒子

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2012）「発達障害と情緒障害の関連と教育的支援に関する研究—二次障害の予防的対応を考えるために—」

【書籍】

古荘純一（2016）『発達障害とはなにか誤解をとく』朝日新聞社.

小西行郎（2012）『発達障害の子どもを理解する』集英社.

【Web サイト】

文部科学省 「発達障害とは」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/hattatu.htm （参照 2017/05/02）

一般社団法人 日本発達障害支援協会 特別支援学級の現状

<http://humane-place.org/zouka> （参照 2017/05/09）

独立行政法人 日本学生支援機構 障害学生数・障害学生在籍率の推移

http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/chosa/index.html （参照 2017/05/09）

発達障害・ADHD・アスペルガー症候群・自閉症児を支えるための情報サイト <https://asperger-syndrome.jimdo.com/%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%83%9A%E3%83%AB%E3%82%AC%E3%83%BC%E7%97%87%E5%80%99%E7%BE%A4%E3%81%AE%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%AE%E9%95%B7%E6%89%80/>

（参照 2017/05/18）

政府広報オンライン

<http://www.gov-online.go.jp/featured/201104/contents/rikai.html> （参照 2017/05/18）

日本放送協会

<http://www1.nhk.or.jp/asaichi/hattatsu/> （参照 2017/06/01）

ATARIMAE PROJECT 障害者とともに働くための基礎知識

<http://www.kaien-lab.com/aboutdd/certificate/> （参照 2017/06/06）

文部科学省 主な発達障害の定義について

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/004/008/001.htm （参照 2017/06/06）

厚生労働省 障害者の範囲（参考資料）

http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/d1/s1031-10e_0001.pdf (参照: 2017/06/06)

保育のお仕事 専門性を捨てる! 「ナラティブ・アプローチ」を使って子どもや保護者の心をほぐそう

<https://hoiku-shigoto.com/report/trouble-at-work/narrative-approach/#i-12> (参照 2017/08/05)

ほいくじょぶ ナラティブ・アプローチとナラティブ・セラピーの役割

http://hoiku-job.net/column/hoikushi_job/3211 (参照 2017/08/05)

統計データ: 子どもの発達障害 - TEENS

<http://www.teensmoon.com/characteristics/high/> (参照 2017/08/04)

発達障害のある方の進学進路 「高卒で就職か? 大学・専門学校に進学か?」

<http://www.kaien-lab.com/faq/next/> (参照 2017/08/04)

平成 27 年度「高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・内定状況」取りまとめ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000124354.html> (参照 2017/08/04)

LITALICO ワークス 「発達障害者の就職・雇用事例」

https://works.litalico.jp/interview/case/developmental_disorder/ (参照 2017/08/04)

リンクビー 「発達障がい専門の就労支援サービス」

<http://www.linkbe.jp/> (参照 2017/08/04)

en+courage 「発達障害や働きづらさを抱えた方の就職を応援」

<https://en-c.jp/> (参照 2017/08/04)

社会福祉法人 北摂杉の子会 「自閉症・発達障害のある方を支援する福祉施設を大阪・高槻で運営」

http://www.suginokokai.com/facilities/jj_osaka.html (参照 2017/08/04)

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 「事業主と雇用支援者のための障害者雇用促進ハンドブック」

平成 25 年度版 http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/koyo/shogai/H25HandBook_web.pdf (参照 2017/08/04)

厚生労働省 「障害者の自立と社会参加を目指して」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/idea01/>

株式会社 Kaien 「大人の発達障害」

<http://www.kaien-lab.com/aboutdd/definition/>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください